

平成31年度

第1回駒ヶ根市総合教育会議

会 議 録

駒ヶ根市教育委員会

## 平成31年度第1回駒ヶ根市総合教育会議議事日程

平成31年4月26日（金曜日）

駒ヶ根市役所本庁舎2階大会議室

午後3時00分 開 会

- 1 開会
- 2 市長・教育長あいさつ
- 3 協議事項
  - (1) 平成31年度事業の推進について
  - (2) その他
- 4 意見交換
- 5 その他  
教育大綱（駒ヶ根市教育振興基本計画）について  
H27～H31の5カ年の成果と課題の整理  
次年度以降5年間の計画の策定
- 6 閉会

## 出席者

### 教育委員会

教 育 長	本 多 俊 夫
教 育 長 職 務 代 理 者	下 島 公 平
教 育 委 員	福 澤 惣 一
教 育 委 員	唐 澤 浩
教 育 委 員	氣 賀 澤 知 保

### 市長部局

市 長	杉 本 幸 治
総 務 部 長	小 平 操
福祉課社会福祉係長	唐 澤 裕 二

### 事務局職員

教 育 次 長	北 澤 英 二
子 ど も 課 長	北 原 純
社 会 教 育 課 長	入 谷 吉 博
教 育 総 務 係 長	山 本 和 重
教 育 総 務 係	吉 澤 啓 太 郎

## 会議のてんまつ

### 議事日程記載のとおり

午後 3 時 00 分 開会

#### ○北澤教育次長 皆さん、こんにちは。(一同「こんにちは」)

会議にご出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから平成 31 年度第 1 回駒ヶ根市総合教育会議を始めさせていただきます。

本日の司会は教育次長の北澤で行いますので、よろしく願いいたします。

それでは、最初に杉本市長よりごあいさつをお願いします。

#### ○杉本市長 どうも皆さん、こんにちは。(一同「こんにちは」)

今日は第 1 回の総合教育会議ということで、教育委員の皆さんには、お集まりいただきましてありがとうございます。

また、委員の皆さんには、常日頃から駒ヶ根市の子どもたちの教育ということで大変お世話になっております。本当にありがとうございます。

迎えました平成 31 年度でございますけれども、駒ヶ根市全体としては、今、第 4 次総合計画をつくって事業を進めておりまして、前期 5 年が終わりまして、本年度からは後期のスタートの年になるわけでございます。昨年度、後期の基本計画をつくらせていただいたところでございますので、基本的にはそれに従って進めていく年かなと、そんなふうに思っております。

そうした中で、後期のスタートの年でございます、今回、予算全体では「交流と支え合いで創る『地域共生推進予算』」ということで予算全体をまとめさせていただいております。一般会計は昨年度より 3.9%増の 155 億 5,900 万円。それから、特別会計、公営企業会計が 108 億 7,819 万円ということで、トータル的には 264 億 3,719 万円、全体で 4.2%増となっております。

今回、交流と支え合いっていうキーワードにしておりますけれども、もう言うまでもなくて、今いろいろのことを進めていくのに、駒ヶ根市独自でっていう、そういう時代じゃないと思っております。交流ということで、特に昨年、青年海外協力協会、JOCA さんが駒ヶ根に本部を移転していただきましたので、その皆さんを接点とした新しいまちの交流をしていきたいと思っております。もう一点の支え合いは、今、特に少子高齢化が進んでおりますので、特にお年寄りの皆さんの関係が、より今まで以上に地域の皆さんの支えがなくてはやっていけない、そんな状況になってきております。ここ 2 年くらい、生活支援コーディネーターを各 16 区に設置させていただいて、その皆さんを中心にサロンを実施させていただいております。おかげさまで、社協を中心にやっていたときと比べれば、16 区全部に立ち上がり、非常に参加者も増えてきている、また、地域の皆さんも関わっていただいておりますので、本年度は、さらに地域の支え合いを広げていきたいと、そんなふうに思っておりますので、地域全体で共生する予算という形にさせていただいたところでございます。

そうした中で主な事業でありますけれども、一つ、建設関係では教育委員会の関係であります地域交流センター（赤穂公民館）とつくし園を併設した建物が、近年ではない大きな事業かなと思っております。おかげさまで、過日、国の方から内示がございまして、この予算については国 100%の内示をいただきまして、今のところ予定どおり進められるのかなと思っております。

また、駒ヶ根駅前の広場の整備についても 100%の予算の内示をいただきましたので、この 2

つについては確実に進められるようになったということかなと思います。

あと、中割経塚線の方は、補助が 75%くらいでしたけれども、これは今年完結しなきゃいけない事業でありますので、一般の予算等を利用する中で完結させていきたいと思っております。

それから、もう 1 つの大きな柱が青年海外協力協会、JOCA さんと連携をして生涯活躍のまちづくり構想をつくっていく年になるのかなと思っております。よく JOCA の理事長の雄谷さんが言っている「ごちゃまぜのまちづくり」、障がいを持った皆さんも、それからお年寄りも子どもも、それぞれが自分たちの役割のある、そんなまちづくりを進めていきたいということで、今年、その計画をつくる年になります。とりわけ多くの皆さんのお力をいただいた中でつくっていききたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

教育委員会の関係の今年の予算ですけれども、昨年の猛暑がありまして、国の方で昨年度に限って補正で学校施設の空調設備の整備事業の補助制度ができました。今回、小中、保育園、公立の幼稚園、全ての普通教室と特別教室にエアコンを設置するというこゝで、今準備を進めております。今のところ順調に進んでいますので、6 月中には事業完了すると思ひしております。全体で 5 億 9,000 万円と大きな予算になっております。

あと、拡充では英語のコーディネーターの配置、それから学校の ICT 機器整備の事業などを今回予算化させていただいております。

この後、また皆さんとお話する中でよりよい方向に持っていけたらいいのかなと、そんなふうにお思ひしておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

**○北澤教育次長** 続きまして、本多教育長よりあいさつをお願ひします。

**○本多教育長** 改めまして、こんにちは。(一同「こんにちは」)

先ほど市長の方からありましたけれども、今年の 2 月 22 日に市長から施政方針が出されまして、愛と誇りと活力に満ちた駒ヶ根市ということで、合い言葉は「ともに創ろう！ 笑顔あふれるまち駒ヶ根」ということゝです。愛も誇りも活力も夢も希望も、言うのはたやすいし、きれいに聞こえるんですけども、内から育っていなければあり得ないことだなっていることを、1 年半、教育長という任につかせていただいて、改めて思ひしております。この後、それについて少し触れたいと思ひますが、今日は充実した会になりますように、よろしくお願ひいたします。

**○北澤教育次長** それでは、お手元の次第に従ひまして会議を進めていききたいと思ひます。

最初に、平成 31 年度事業の推進につきまして、年度当初でありますので、駒ヶ根市の教育大綱を踏まえまして、本年度の事業の推進方針や、また予算に計上されています主な事業について確認したいと思ひます。

最初に、本多教育長より本年度の教育基本方針について説明をお願ひいたします。

**○本多教育長** お願ひいたします。

1 ページですが、育てたい子どもの姿、先ほどお話ししましたように内から育つひたむきな子をぜひ育てていかなきゃいけないなということゝをますます強く思ひしております。どういうことかといいますと、先生や大人から言われたことだけ消化する受け身の姿でなく、自ら求める心を持って追究する資質、態度、これを内と考へたときに、それが育つて最後まで自己の責任においてやり抜く気概を持っていれば、生き方の軸がぶれることはないと思ひしております。やはり 20 年後

30年後を考えて私たちは教育していかなきゃいけないわけで、このところがぶれてはいけないなど、そういうふうにしていけば時流に迎合することもないのではないかなということ強く思っております。

先ほど申し上げました愛も誇りも活力も夢も希望も、外から誰かが与えてくれるかもと期待したって何も育たない、やっぱり自分から、いろんなきっかけや、先生方に褒められた、周りの地域の大人に認められたっていう、中から育っていくんだと思います。学びは日々の生活の中にあると思っています。

特に、今年いろんなところで校長先生たちに、失敗を早いうちに経験させてやってもらいたいと言っております。今しか失敗するときはございませんので、大いに失敗をしてほしいなと思います。

また、どんな些細なことでも、我々、子どもを取り巻く環境である大人は、褒めるのもいいんですが、認めてやっていただきたいなあと思います。いい例が、今年度末で中沢小学校の校長を辞められた霜田校長が「駒ヶ根に来て、私が車で来て横断歩道で止まると、子どもたちが最初にちょっと会釈をし、渡り終わると、またぱっと頭を下げていく」と、「これ長野市ではあり得ません」と言っていました。「私は、もう天国にいるようで、ここにもっと長くいたいです」というようなことも言っておりました。これが先生や大人がいなくても、自ら実践できている姿ではないかなと私は思っています。こういう姿をうんと積み重ねていくことが大事かなと思います。何かすごい妙薬があるんじゃないか、そんなことはないなど、身近な学びや日々の生活の中にありますので、学校は、もちろん授業を中心に、子どもの生活は授業そのものでありますので重きを置いているわけですが、日々の生活の中でもっと重視していきたいなあと思います。

そんな内から育つ子どもの育成のために、ちょっとした合い言葉を考えてみました。一番下ですが、「こ」「ま」「が」「ね」っていうのをアクロスティックでやりました。「こ」個性を育み、「ま」まことの姿を求め続ける、やっぱり本物志向ということです。「が」我慢強くやり抜き、これは校歌にあります堅忍不拔であります。「ね」願いを明確に持って挑戦し続ける、これもありますが、向上進取でございます。昔から校歌にうたわれていたのとびったりだなというふうに自我自賛しておるわけですが、何とかこういう子どもに育てたいなあというふうに思っています。

具体的には2ページ以降に書いてございますけれども、1つだけお話をして終わりにしたいと思います。幼保小中高と書きました幼児期、小学校のところで、読み聞かせであるとか、Q-Uの活用場の場づくり、英語力向上、体験学習重視、総合、十二天の森活用、調べ学習等々書いてございますが、体験学習の重視ということを今後も引き続けていきたいなあと思います。自らの責任においてということが前提にございますので、一番当初に申しました内から育つ一番の格好の手段であるかなあと思います。校長先生はじめ先生方には、改めてこのことを周知徹底していきたいなあと思っております。

付録でございます。3月19日に美須津保育園へ赤穂高校のボランティアの女の子3人が絵本の読み聞かせに行ってくれました。これもいろんなところで話していますが、ミーアキャットのよように、幼児たちが本当に一生懸命聞いておりました。こういう機会をうんと増やしてほしいと、そうしたら高校のボランティアの顧問が「1週間に一遍ぐらい続けてやらせてください」なんて言って、園長先生も「いや、そんなにまで…」なんて言うくらい喜んでおまして、これから少しずつ、他の園、また小中に広げていきたいという思いも言っていただきました。大変ありがた

いことで、まずは一步踏み出さなきゃだめだなということを思っております。

時間も限られておりますので、以上で、あとはお時間のあるときにお目通しいただければと思います。お世話になります。よろしくお願いいたします。

**○北澤教育次長** 次に、事務局より本年度の教育委員会の事業につきまして、別紙で「平成 31 年度教育委員会主要事業の取り組み方針について」ということで、私の方で簡単に説明をしたいと思っております。

「1 学校教育の推進」につきまして、(1) 学力の向上を図るということでありまして。

イ) からニ) がありますけれども、ニ) の学校 ICT を活用して質の高い学びを実現するための ICT の整備ということで、本年度、パソコン教室のパソコンの更新、またプロジェクター型電子黒板の整備を中学校 3 年生の普通教室に行う予定でございます。赤穂中学校、東中学校の先生方を対象にデモを行いまして、プロジェクター等について意見を聞いて、現場の意見を聞いて進めていければということで準備を進めている状況であります。

(2) の地域に開かれ地域に支えられる学校づくりの部分では、コミュニティ・スクールについて、小学校で全てに設置されまして、中学校は準備校、東中が 2 年目、赤中が初年度ということで、順次進めていきたいと考えております。

(3) の安全・安心な学校施設の整備につきましては、今市長が言われましたように、小中学校全部に、普通教室、特別教室についてエアコンを整備する予定であります。

ロ) の新竜東学校給食センターにつきましては、少子化の状況も含めまして教育委員会の中でもご議論いただいておりますので、そういった部分について、整備について考えていきたいと考えております。

次のページをご覧ください。

7 ページになりますが、「2 幼児教育の推進」です。

ここでは、(3) に発達特性に対する支援ということで、先ほど出ました赤穂公民館につくし園を併設して新設し、整備をしていきたいと考えております。

(4) の一番下のへの幼児教育の無償化については、今現在、情報収集をしている状況であります。今年の 10 月からということでもありますので、それに間に合うように予算対応をしてやっていきたいと考えております。

(6) の保育園、幼稚園の施設整備については、小中学校と同様に保育園、幼稚園のエアコンの整備を全園で進めるように手続きをしている状況であります。連休明け早々に入札の予定で準備を進めております。

次の 8 ページをご覧ください。

「3 子育てに喜びを感じる家庭づくりの推進」では、(3) の第 2 期子ども・子育て支援計画の策定ということで、平成 30 年度に学校また就園前、保育園等についてニーズ調査を行いまして、それをまとめまして、本年度、第 2 期の計画策定をしていく状況であります。

それと併せまして、子育て 10 か条につきまして、制定後 12 年を経過し、変わってきた部分もありますので、検討いただく、ご議論いただくような形を考えております。

「4 安心して産み育てることができる環境づくりの推進」では、(1) の出産後の育児、体の不安の解消の部分で母乳チケットの増、また産婦健診の助成を実施する予定であります。

「5 音楽を通じて生きる力を育む事業（エル・システム事業）」につきましては、継続して弦楽教室を実施して、今年も体験会を行いまして、参加する児童、中学校も含めてやっていく形であります。また、地元の音楽家等と連携をして、そういったイベント等にも積極的に参加していくような形をとりたいと考えております。

次に9ページ目をご覧ください。

「6 生涯学習活動の推進」につきましては、(2) の社会教育施設の整備ということで、地域交流センター（赤穂公民館）等の施設整備事業の推進や運営体制を検討し、また施設も新しくなるということで、隣にあります総合文化センターと併せた管理体制の検討を今進めている状況でありまして、こういったものを準備していきたいと考えております。

「7 文化財の保存、活用、文化芸術活動の推進」につきましては、(2) の創造的な文化芸術活動を進めるということで、一昨年に引き続き文化芸術振興懇話会を開催いたしまして、文化芸術指針等も含めまして検討を進めていきたいと考えています。

「8 スポーツの推進」につきましては、(1) の市民スポーツ、生涯スポーツで信州駒ヶ根ハーフマラソンの実施や、かけっこ検定を赤穂東小学校が今度モデル校ということで進めていきます。

また、2027年度開催予定の国体について、駒ヶ根市の会場種目の選定をしていきたいと考えております。

手元の資料につきましては、市の全体の予算については、総括、内容から今までも説明しております。もう一つの教育施策の駒ヶ根市教育大綱の8の教育関係施設の抜粋の部分がありますけれども、これは、教育大綱の部分の施設管理の部分、施設整備の部分で、学校教育施設について、また保育園、幼稚園、また社会教育施設について、27年度～31年度の5年間の、31年度は予算ですけれども、経過を載せてありますので、ご参考にしていただければと思います。

それでは、ただいま説明したことにつきまして意見交換とさせていただきます。教育委員さんからご発言をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

**○唐澤委員** 学校 ICT 機器の整備のことをお伺いしたいと思います。ICT 機器を導入するのに予算をつけていただいてありがたいと思うんですが、ICT 機器を使うこと自体が目的化してしまっただけでは、ちょっとどうかなと思います。どのような授業が行われるのか、ちょっと具体的には分からないんですが、やっぱり授業の効率的な進め方ですか、あと、前に箕輪中学校へ視察に行ったときに、技術的に専門の方が配置されていたんですね、そういうことも必要じゃないかと思っています。そうすると、また予算的な措置が必要になると思うんですけれども、その辺はいかがなんでしょうか。

**○北澤教育次長** 箕輪中は、県のモデル校として積極的に取り入れている状況があります。その中で、タブレット等、パソコンについて整備する中で、ICT を支援する人を採用したということです。駒ヶ根市でもタブレット等を全体で120台くらい配備しているんですけれども、やはり使い方とか、また適切な指導も、先生方、授業の準備の時間も必要ですので、こういった指導をする体制が、やはり今後、整備をしていく中では必要かということで、3カ年も含めて検討していると考えています。

**○杉本市長** ICT も、今はやりみたいになっているんだけど、委員さん言われるように、取り組む先生方がどこまでこれを使えるかっていうことにかかってくると思うんですね。

それから、ICT って日進月歩が激しいので、どんどんどんどん回転していかないといけないところがありますよね。最初、武雄市が全員にタブレットを配ったっていったときにはうんと注目されたんだけど、今は全く使われていないと、もう古くなってしまって、また先生たちがそれについていけない、そういうことがあるんで、この辺は、ぜひ教育委員会の中で、委員さん等も含めて、何が必要かっていうのをしっかり議論してもらった方がいいのかなと思っています。例えば電子黒板みたいなものでしたら、ある程度ソフトができていけば使えると思いますけど、タブレットを使ってやるってなると、どういうふうにして使ってやるのかって、まず教育長さんがイメージできるようになってからやってほしいと思います。

今、パソコン入っていますよね。当時、パソコンが入れば仕事が楽になるって言ったんだけど、全然楽になっていないですね。昔は手書きなんで、「明日までにやります」っていう余裕があったんだけど、今どんどん時間が短縮されていっちゃう、それで、そういうものをどんどん使っていると目が悪くなる。

最近、電子カルテになったら、お医者さんはそっちっきり見ていて話ししてくれないってみんな言うじゃないですか。だから、教育現場へ行ったら、先生がそっちっきり見て、先生ともう話ができなくなるんだったら本末転倒なんでね。こういう ICT って、子どもたちが本当にいろいろに集中したり考えたりする力が高まるなら効果あると思うんですけども、ぜひ、その辺は、教育委員さんたちでもよく議論してもらって、駒ヶ根市にとって何がいいか、まず現場の先生の声を上げてもらって。機械だけを入れて仕事をしているわけじゃないですからね、動かすのは人間なんではないかと思う。先生と子どもが顔の見える関係で、先生がじっくり話を聞いてくれるとかね、そういう環境がないと、こういうような事務的に機械が答えを出してくれるとか、そういう時代じゃなくなってくるのかなとは思いますがね。

**○唐澤委員** 学校は学校で、先生方も研究されると思いますけれども、やっぱり市でも、ちょっとこういうのを考えた方がいいと思います。

**○北澤教育次長** 先生方や教育委員会による情報化推進委員会というのがありまして、その中で去年も先生方の希望とか使いやすいものをとということで、一応真っ先にプロジェクター型電子黒板を入れたらどうかってということで、やってきました。一つ一つがある程度高価なもので、使いこなせるかっていうのがありますので、まず中学校 3 年生の普通教室に入れてみてやっていきたいということで、また準備する中で教育委員さんにも見ていただくようなことも必要かなと思いますし、相談をしていければというふうに考えていますので、よろしくお願いします。

**○唐澤委員** はい。結構です。

続けて、地域と学校のことですけれども、コミュニティ・スクールが多くの学校で行われています。中沢小も表彰されて、これはすごい価値のあることだと思います。コミュニティ・スクールは学校が舞台ですが、さらに子どもが社会を知るために、子どもが地域へ出て行って関われる環境をつくれるように市民に投げかけたらどうかと思います。例えば育成委員の方は教育委員会を通してお願いしているわけですし、祭りや地区の子ども会、区長さんたちとか区の役員さんをお願いするとか、あと JOCA とか JICA もありますし、そういうのへ子どもが出て行ってふるさを知って、ふるさを愛する心が生まれるっていう、さっき市長さんも言われたごちゃまぜの中に子どもも入れてもらえるような流れを考えていただけたらどうかと思うんですが、いかが

ですか。

**○杉本市長** 委員さんの言われるとおりで、子どもたちが家の中においてテレビとかタブレットを見ているっていうのは、やはり、そういうことよりも、子どもたちは、外に出たり地域の人と関わったりすることの方が本当は好きじゃないかなって思います。ですんで、今言うように、これから極力そういう方向に持っていけたらいいのかなあと思っています。

中学生を中心に去年キャリアフェスを行いました。起業している皆さん、あれ何人ぐらいいたんですか、20人くらい、30人くらいいたんですかね、そこに子どもたちが行って「何でこんなことを始めたんですか」って、ああいうのがものすごく興味を示してみんな聞いたりしていたんで、あれはよかったなと思います。今年の中学生の職場体験、去年キャリアフェスをやったことがかなり生きているんじゃないですかね。中学生は今回3日間の職場体験をしていて、小学生は夏休みに親子で職場体験するっていうことを広げているんで、今度は地域の方でもっと関わってもらえるようなことを私も進めてもらいたいと思うな。いろいろのところに声掛けしてもらって、校外指導部の皆さん等あるんだけど、校外指導部だけじゃなくて、そういう皆さんが区などと連携するような仕組みをぜひつくってもらいたいと思っています。実は、区の会計年度を1月～12月を4月～3月に変えたのも、学校の役員の任期と一緒にしてもらって、区の役員やなんか校外指導部の先生たち関係者を、ぜひ区の役員の中に入れてもらって、一緒に連携を取ってもらいたいっていうことを今一生懸命言っているんですよ。そうして地域と学校が一緒になった取り組みをぜひ進めてもらいたいと思うんで、また機会あるごとに、そういうふうに私の方からも言っていきたいと思います。もう絶対必要なこと。

**○唐澤委員** いろんな大人を見ることが勉強になると思います。

**○杉本市長** そうですよ。

**○北澤教育次長** キャリアフェスは、平成29年に東中学校で、去年は赤中でやりました。本年度については、内容の検討をさせていただいて、継続しやすい形をとっていければと思っていますので、よろしくをお願いします。

**○福澤委員** それじゃあ、お願いします。

学校の環境整備ということで、かなりの予算を組んでエアコンを設置するということがありますが、去年の夏のあの暑さまでは、みんな工夫して、すだれをつくったりとかアサガオをつくったりして、子どもたちも一生懸命工夫して何とか乗り越えてきました。去年あの暑さだったということで、これだけの予算を組んで、エアコンを入れる形になったわけですが、これから、また経費もたくさんかかってくるんだと思います。子どもたちの学校の環境を整備していくための駒ヶ根市の意気込みはうんと感じられると思いますが、去年以前は、夏の暑い時期をどうやって過ごすかという中で、夏休みを長くするとか、それでそこを避けるんだとかっていうような議論もあったわけです。今度はエアコンが付いたわけですが、それでもまだ県の方で、夏休みのことを考えるみたいなことを言っておるわけで、環境整備をこれだけして学習をできる体制を整えたものですから、この夏休みをどうするっていうことについては、またゼロに戻してやった方がいいんじゃないかなと私は思うんです。一生懸命環境を良くしているんですから、学校で勉強してもらいたい。夏休みをとったからといって勉強をしないわけじゃないんですけど、やっぱり学校でした方がいいような気がするんですが、市として、市長さんの考え方として、夏休みについてはどう

いうふうを考えておられるのかなというところを教えてください。

**○杉本市長** 僕も、何のためにエアコン入れるっていうのは、勉強してもらうためなので、休みになるんだったらエアコンを入れなくてもよかったのかと思います。ぜひ、生かしてもらいたいと思いますね。

夏休みをずっととればエアコンを入れなくても済んじゃう話なんで、授業時間をしっかり確保して、子どもたちがしっかりと学習とか生徒会活動をしてもらいたいっていうことで入れるんで、ぜひ教育長さんを含めて教育委員の皆さんでそんな方向へ持って行ってもらえば、駒ヶ根市らしさが出ていいんじゃないですか。

**○福澤委員** この間の議会便りにちょっとそんなような内容が載っておって、そんな中でも、やっぱり駒ヶ根市としてもそういう考え方だっているものは、市長さんの腹の中の……

**○杉本市長** ええ。私は、もう、そう思っています。

**○福澤委員** そう思っていたけりゃあいいと思いますけれども。

**○杉本市長** かといって、教育現場、校長先生たちが責任持ってやっているから、そこも重んじなきゃいけないんで、私の思いとは、そういうものもあって今回、大人の財政力も厳しい中で全教室に入れますんで、ぜひそういうことも生かしてもらえたらなと思います。

**○福澤委員** 分かりました。

**○下島教育長職務代理者** 毎回項目として出るわけではありますが、学校施設の整備関係の中で、老朽化が相当進んでおる竜東学校給食センターと、中学校整備の問題です。給食センターと中学校問題と全く関係がないわけじゃなくて関連もあるんで、少子化の問題、また、さらに今後の生徒数の推移に見込み等々を含めて、急いで進める部分と相当検討を要して取り組むところとあります。ぜひ慎重にかつ、一部は急ぎつつ検討をいただきたいなあと思います。そこら辺の見解を再度お聞きしたいと思います。

**○杉本市長** 教育委員会の関係ですと、学校関係の耐震は大体終わってきているわけでありまして、唯一大変だった赤穂公民館の建て替えも、これのおかげでできます。次に残っているのが、下島さんが言われた中学校の問題と、あと、付随している東中にある給食センターです。一年間で生まれた子どもの数は、おとし 236 人で、去年はもうちょっと回復してくるかなと思ったら 240 人っていうことで、少子化にいろいろ手だてしているんですけども、なかなか歯どめがかからないっていうのが現実ですね。そうした中で、240 人っていう人数を考えたときに、じゃあ学校の施設がどれだけ要るかっていうのを、やはり真剣に考えなければいけません。過剰投資をしてしまうと、今度は市全体の財政にも非常に影響が大きいもんですから、まず一つ、今年は公民館を建て替えていますんで、そちらの方に集中します。それから、保育園の建て替えが残っていますんで、その辺の事業費を出す中で、少子化と併せてどっちの方向に持っていったらいいかっていうのを考えなきゃいけない時期かなと思うんです。

給食センターは、赤穂に「すずらんキッチン」と「あるぷすキッチン」、両方あるんですけども、すずらんが何人規模でしたっけ、1,000……

**○北澤教育次長** 1,800 食です。あるぷすキッチンが 1,300 食。

**○杉本市長** 3,100 食ですよ。そうすると、240 人でやると、2,400 人で、もう中学 3 年まで行っちゃうんですよ。費用対効果じゃありませんけれど、将来を見越して、余り急いでやって

「えっ」ってなってもいけないんで、また教育委員さんともよく意見交換する中で一定の方向をつくっていきたいと思います。

今年は大きな事業があって、次に大きな事業は、市全体では福祉センターの耐震化が1つですかね。福祉センターと、今言った保育園だよ、あと。そうした中で、何の事業を優先していくかっていうのを、ちょっとまた委員さんたちとも相談させていただく中で決めていきたいと、いずれにしても子どもの数がどうなるかって一番なんで、そこも考えながら行きたいと思います。

**○下島教育長職務代理者** 確かに、ここ10年前と現在、これからまた10年はね、本当に激変、環境が激変すると思うんです。

**○杉本市長** 本当に子どもが増えてもらわないと困るんですけども、残念ながら、いろいろ手だてはしているんですけども、ぜひ、どうやったら子どもが増えるか提案してもらいたい、本当に。日本中、今そんな傾向なんで、国の方も極力集約化の方向にきていますかね。駒ヶ根市においても、240人っていうことになる、中学校が早い話で1校あればいいような話になっちゃいますんで、ちょっとその辺は、また相談させていただきます。

**○下島教育長職務代理者** ありがとうございます。

**○北澤教育次長** 続きまして氣賀澤委員さん。

**○氣賀澤委員** 今建設中の地域交流センター（赤穂公民館）のことについてなんですけど、今建設はどのくらいまで進んでいらっしゃるのでしょうか。あと、いつも文章だと地域交流センター（赤穂公民館）・つくし園のように長い名称になっているんですけども、これはいろんな方が多分利用されるので、もう少し分かりやすい名称になるのかとか、何か今後するのかお聞きしたいです。

**○杉本市長** 赤穂公民館の事業なんですけども、今、基礎工事をやっていて、病院のときの地下の基礎工事、8メートルぐらい下のところに浄化槽が出てきたってことがあって、今それを取り除いています。

あとは大体順調にいつているんですかね。

ちょっと心配しているのは、業者から言われていて、今、鉄骨とボルトっていうんですかね、鉄骨を締めるボルト、これが今いろいろ東京や被災地の方で需要があって、供給がちょっと厳しいような状況っていう話を聞いております。工程的に今すぐどうのこうのっていうところまではまだ聞いていないんで、ほぼ順調にいつているっていうことでよろしいですかね。

**○北澤教育次長** そうですね。

**○杉本市長** あと、もう一つは、公民館と文化センターが一緒になって、つくし園も一緒になるんで、管理の面で、窓口をどういうふうにするのかとか、いろいろの団体の皆さんがどういうふうな形で連携をとっていくかっていうことについては、各種団体の皆さんの意見を聞く中で新しい管理体制について早急にまとめるように協議会の方をお願いをしております。

今、愛称っていう話があって、確かに、地域交流センター（赤穂公民館）は事業の名前なんで、これをどういうのにするのかっていうのは、また教育委員会の方でよく考えてもらって……

**○北澤教育次長** そうですね。

**○杉本市長** 何か愛称みたいにするのか、ちょっとまた分かりやすいので考えてもらったらいいかな。

**○北澤教育次長** 前の施設は「きらら」っていう平仮名の施設でしたが、それはそれとして、分かりやすい愛称っていうのは、やはり必要かなと思います。教育委員会の中でも関係者を含めて検討していきたいと考えております。

運営についても、今、関係者、赤穂公民館の運営の方と利用されている方と、あと文化センターの利用されている方で話し合いを行っています。隣にあるので、一体的な使い方ができるように、より使いやすく相互にうまくできるような形、また管理運営も、あっちもこっちもじゃなくて一体的にできるような形も含めて検討しておる状況であります。ある程度方向が出てきましたら、また教育委員さんにもご意見をいただければと考えておりますので、よろしく願いいたします。

**○杉本市長** いずれにしても、申し込みやなんかは1つの窓口でできるようにしてもらって、あと管理体制も、新しいホールは文化センターと連携してもらったりして、そこら辺を協議会で詰めてもらっています。またまとまったら教育委員さんたちにも話してもらって、意見をもらってくれますか。

**○北澤教育次長** はい。分かりました。

またご相談したいと思いますので、よろしく願いいたします。

他にはどうですか。

**○唐澤委員** 教育と福祉の連携のことですけれども、福祉の分野ともすごい重なる領域があると思います。例えば貧困のことですとか虐待のこと、そういうのは普段どのように福祉課だとか市の社協だとかと情報共有されているのかっていうことと、主要事業の中に取り上げられているのは、この資料を見ると保育料の軽減ぐらいなんですけれども、日常の業務の他に何かそういった福祉のことを進めていくお考えがあるのかということをお聞きしたいんですけれども。

**○杉本市長** 福祉施策ですか。福祉との連携ですか。

**○唐澤委員** 連携、そうですね。普段の業務の中だとどのように連携されているかっていうことと、まずはそれを。

**○北澤教育次長** まず福祉関係、子ども課の中にも保育料含めて福祉関係の相談業務も入っておりますので、さっき言われた虐待の関係については子ども課家庭教育係の中に相談員がいます。ただ、いろんな事案もある中で、例えば母子家庭であれば、福祉課の関係もあって相談員と連携を取り合っておる状況であります。

また、貧困の関係では、いわゆる子ども食堂っていうのもあるんですけれども、「つながる食堂」といって、ふれあいセンターで民間の方が子どもから高齢者まで一緒に、月に1回2回くらいやっておる状況もあります。

また、貧困の関係で、必要であれば生活保護、福祉課の方の生活保護の関係や「まいさぼ」等の就労につなげるような貧困の対策の部分もありますし、あと障がいの関係とか精神、また自殺対策、今やっておりますけれども、そういった部分では福祉の関係、地域保健課の関係で民生部と連携を取っているような状況であります。

**○唐澤社会福祉係長** お配りした主な事業っていう予算の方の5ページを見ていただきますと、真ん中に支え合う福祉のまちづくりというのがありまして、先ほど教育長から話があった母子家庭の場合ですけど、虐待等があったときに、その家が例えば母子家庭だった場合は、母子相談員っていう相談員も含めた相談等をしております。

母子家庭のところでは、高校への通学援助費を支給したりとか、市の独自の予算で高校へ通っている方たちへのそういった電車賃等の補助をしたりしております。

それから、生活困窮のところなんですが、生活困窮者自立支援制度という、生活保護に陥る前に支援をしていこうっていう国の制度が平成27年から始まっております。その中で、学校との連携等を取ったりとか、教育委員会はもちろん、学校とも連携を取ったりして、長野県の相談窓口として「まいさぼ」というのが各市と郡単位にあるんですが、そこが相談窓口となって生活困窮の相談に乗っております。お金のことや仕事のこととも含まれておりますが、親の貧困とともに子どもの貧困が結び付いてきますので、そういった相談に乗りながら、子ども、特に小中学生がいる場合は就学援助という援助費が教育委員会の方から出ておりますが、そこへ結びつけたりとかして、親だけではなくて、子どもたちへの支援っていうのも、そういった形でやっております。

**○杉本市長** それと、そこに結びつけるのにどういうふうにやっているかっていうことを話してもらいたいんだよ。例えば学校現場から気が付いたら福祉にどうつなげているかとか、教育委員会と福祉がどうやっているか、ケース会議をやっているとか、具体的な取り組みを。

**○北澤教育次長** いろんなケースがありますけれども、子ども課だけで関係する部分じゃないケースも非常に多いので、そのメンバーをお呼びしてケース検討会をやって、みんなで情報を共有して、役割分担をしてやっております。民生部の保健師もおりますので、その部分でやっていただく役割とか、今言った障がいとか、そういった部分のケース検討会議をやっております。

**○杉本市長** 学校現場と教育委員会は。

**○北澤教育次長** 学校の関係は、特別支援や発達障がいの関係を含めまして、情報の共有の中で、過去の経歴とかも含めまして、支援が継続的にできるようにしています。前は子どもカルテっていったんですけれども、「結 i n g」っていうのを使って情報の提供をして、その中で必要な部分があれば福祉の方につなげる形をとっておる状況であります。

障害者手帳とか療養手帳につきましては、福祉課の部分になりますので、そういったものが必要であればお伝えし、また児童手当等、児童扶養手当とか手当の関係についても福祉課の方へお伝えして、連携をとって支援をしているような状況であります。

**○杉本市長** 保育園、幼稚園から、例えば少し支援が必要な人はどういう人かっていうのを学校につなげるために子ども課をつくったんですよね、一番の目的は。だから、今言ったように情報を共有する中で、何かあった場合はケース会議を開いてみんなで一緒に相談に乗ろうって、今そういうことでやらせていただいています。教育委員会にも保健師がいて、福祉ことも管理しているので、そういう点ではうまくつないでもらっているのかなって思っています。そこを一番、私は大事にしてもらいたいなと思っています。

あと、その都度、必要があれば専門的な先生に入ってもらうっていうこと、それから、今つくし園で療育をやっていますけれども、その辺のことや、5歳児健診を通して早目にいろいろなことを発見してやっていくっていうことの取り組みは駒ヶ根市の特色だと思いますんで、そこは、ぜひまた連携をとってもらってやっていきたいと思います。

今、政府でも時々言っているけど、全体をそういうふうにして、必要な支援はそこでやっていくっていうことですかね。

**○唐澤社会福祉係長** そうですね。

**○杉本市長** そうしなきゃ意味がないんで。今、全ての事業が1つの課で完結するようなことはないですね。みんなで連携をとらないと。

今回、生涯活躍のまちづくりってやるんですけれども、これは、まさに今までの縦割りを全部廃止しちゃって横でやるような仕組みになります。これを進めていくと、市役所全体の組織やなんかを見直さなきゃいけないのかなと、今、私自身はそんなふうに思っていますかね。例えば、外にいろいろ情報発信するものあるじゃないですか、企業誘致だとか。でも、商業の振興、農産物の振興、企業誘致、みんな一緒なんですよ、外に情報発信するとすれば。今、それがみんな窓口が分かれているんで、できれば、将来的には、庁内一本にしてね、外に情報発信していけたらいいのかなと。

かつて移住者の相談会も行政だけが行っていたんだけど、それでは窓口が一本化できないんで、今、田舎暮らし推進協議会をつくって、不動産会社の人、銀行、建築の皆さん、それから行政と一緒にやって相談に乗っています。どこどこに移住したいって言うと不動産業者の人が空き家はどことどこにあります、家を建てたいって言ったら銀行がこういう融資制度があります、建設業者がいるんで私たちがお手伝いしますってやるって、行政としても、例えば新築なら60万円、中古だと40万円プラス、大体110万円くらいですかね、そういう補助制度があるので、それをみんなと一緒にやって相談に乗るんで、おかげで移住者は数がうんと増えています。

ですんで、やはり今言ったように相談窓口っていうのはみんなで一緒に相談するようなことを一番大切だと思っていますんで、そんなふうにしていきたいと思います。個別にやっちゃうと、どうしても、またあっちへ行け、こっちへ行けになっちゃうんで、要するに、何かを相談するときには、みんなが一緒になって相談をワンストップでやると、それを大前提に進めていきたいと思っています。

**○唐澤委員** ありがとうございます。

**○北澤教育次長** 他には……

**○下島教育長職務代理者** さっきのことへ戻って悪いけど、さっき市長さんの説明だと、新竜東学校給食センター、240人の出生数が増えることが望ましいけれども、仮に横ばいにいった場合、10年後15年後へ行けば、240掛ける小学校が6年、中学が3年で9を掛けりゃあ2,000食ちょっとになっちゃうね。それで、今3,100食なりの能力があるとすれば1,000食も余剰能力になってしまう。

**○杉本市長** 施設をどこかに増築できるなら、そういうことも検討して、その方が将来的に見越してもいいのか、そこら辺も併せてやらないと、と思っています。

**○下島教育長職務代理者** そうですね。

**○北澤教育次長** やはり既存の施設もうまく利用しながらっていう部分も含めて検討させていただき……

**○杉本市長** 給食センターも1個造ると6億円じゃきかないなあ。

**○北澤教育次長** そうですね。

**○杉本市長** 何しろ少子化になっちゃって、飯島町から、給食センターを造らなきゃいけないけど6億円かかるんで、駒ヶ根市の給食センターで作ってくれないかっていうぐらい、本当に今そんな感じですよ。飯島町が去年1年間で生まれた子どもが50人くらい、宮田もそう、中川が20

人くらいですよ。そんなところでしたね、大体。だから、みんなどこも、もう新たな施設を造るのに、さっき言ったように連携っていうんですか、共同でやってくれないかっていう、そんな時代が多分しばらく先に来るんじゃないですかね。それぞれが単独でやるなんていうことは、とても維持管理が大変になってしまって。今ドライ方式にするから高いなあ。

○北澤教育次長 高いですね。

○下島教育長職務代理者 私どもも研究しますけれども、ぜひ……

○杉本市長 ですね。変にして過剰投資しないようにだけはしたいと思っていますんで、慌ててやっちゃって過剰投資になっちゃったら、ちょっと大変なことになっちゃうんで。

○北澤教育次長 他に何かよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○北澤教育次長 それでは、そろそろ時間が参りましたので、このくらいにさせていただきます。なお、確認をいただきました方針等について、これに沿って事業を進めていきたいと考えております。

また、いただいたご意見につきましては、事務局で検討し調整をまいりますので、よろしくお願いいいたします。

次第の中にあります4のその他ですけれども、教育大綱につきまして、駒ヶ根市の教育振興基本計画が大綱ということで、ここで決めていただいておりますが、本年度が最終年度となっております。本年度、平成27～31年度の5カ年の成果と課題等を整理いたしまして、次年度以降、またこういったものを策定していきたいと考えております。第4次総合計画を基本といたしますが、子ども・子育て支援計画や、そういったものと調整する中で、定例教委や総合教育会議等の中で検討していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいいたします。

次回につきましては、3カ年の関係になりますので7月ころを予定させていただいておりますので、よろしくお願いいいたします。

その他、よろしいですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○北澤教育次長 それでは、以上をもちまして第1回の総合教育会議を閉じたいと思います。

ありがとうございました。

午後4時00分 閉会